

報告

日本技術士会北海道本部
第58回 年次大会・講演会

小澤達也

1. はじめに

公益社団法人日本技術士会北海道本部の第58回年次大会が2023年7月12日(水)ホテル札幌ガーデンパレスとオンラインを併用したハイブリッド型で開催されました。今年は講演会後の懇親会が復活し、昨年度と比べて会場の出席者数は増加いたしました。《出席者》会場：74名、WEB視聴：28名、合計：102名

2. 年次大会(15:30～16:30)

今回は定期報告として5つの報告が行われました。年次大会資料を、本会誌後ろの年次大会報告に掲載していますのでご覧ください。



写真-1 会場の様子

(1)開会挨拶

はじめに金本部長より、人口減少社会が我々の足元まで迫ってきていることを実感する中で、AIなどの先端技術が身近に使われるようになってきており、我々の生活を支えるDX技術を使いこなすルールを作り守っていくこと、そのためには技術者倫理が重要であるとのお話がありました。



写真-2 金本部長

続いて、IPD(初期専門能力開発)の仕組みの確立とCPD登録について触れ、日本技術士会北海道本部のメルマガ登録のお声掛けなど細かな活動の積み上げが会員増にも繋がるとのお話があり、統括本部と密に連絡を取りつつ、計画的に活動を展開していきたいと抱負を述べられました。最後に、日本技術士

会北海道本部の活動は、皆様の日々の活動の上に成り立っており、力を合わせて活動支援にご協力いただきたいと結ばれました。

(2)報告事項と質疑応答

以下5件の報告がありました。質問・意見等はありませんでした。

①第1号報告(2022年度事業報告及び決算報告)

長井事務局長より、2022年度の事業及び決算報告が行われ、成田会計幹事より適正かつ問題の無い旨の監査報告がありました。

②第2号報告(2023年度事業計画・予算説明)

前号に続いて、2023年度の事業計画と予算についての説明が行われました。今年度は新型コロナの影響軽減を見据え、各委員会等が活動内容の復活を見込み、単年度マイナス収支の予算計画となったことが報告されました。2024年度への繰越額はコロナ前の約1.6倍と想定しており、全国大会を考慮しても余裕を持っていることから、今回限りの特例措置と位置付け、各委員会・研究委員会は、効率的な活動予算の運用とコストの縮減、並びにCPD行事等の参加料収入の増加に積極的に取り組むとの説明がありました。(詳しい予算内訳等は、本会誌後ろに掲載の大会資料を参照願います。)

③第3号報告(役員を選任について)

2023年度の北海道本部役員交代について報告と紹介がありました。なお、今年4月に日本技術士会の地域組織幹事選出選挙が行われ、北海道本部の立候補者は皆さん信任されています。報告の最後に、昨年度で参与をご退任された舘谷参与のご紹介があり、長年の技術士会活動に対する多大なるご尽力に対し、会場の皆様から大きな拍手が送られました。

④第4号報告(日本技術士会新名誉会員)

名誉会員推薦規則に基づく推挙者について、事務

局より報告がありました。統括本部機械部会及び北海道本部より、佐々木勝介氏を推挙し、2023年度第1回理事会において承認されました。佐々木氏は、平成15年度から現在まで、統括本部機械部会の幹事を務められ、平成19年度～24年度まで北海道本部幹事、平成20年度から令和3年度まで、札幌地方裁判所、途中、釧路地方裁判所の専門委員も務められ、令和元年度には会長表彰を受賞されています。

⑤第5号報告(日本技術士会会長表彰者)

2023年度日本技術士会会長表彰の受賞者について事務局より報告がありました。北海道本部から、小山田応一氏、紅葉克也氏が受賞されました。

新名誉会員、会長表彰受賞者の略歴等は本会誌グラビアをご覧ください。

(3)閉会

議事終了後、1期2年本部長を務められた大熊特別顧問から本部長退任のご挨拶があり、会場の皆様から大きな拍手が送られました。

3. 講演会(16:30～17:30)

今回は、札幌医科大学医学部微生物学講座教授の横田伸一氏をお迎えし、「コロナとの共存への道これまでとこれから」と題してご講演いただきました。

(1)講師のご経歴

横田様は、札幌北高等学校をご卒業後、1987年に北海道大学院理学研究科修士課程を修了され、薬学博士の学位取得後、十数年間、関西の民間企業で研究員として主にバイオ医薬品の創薬研究にたずさわられました。その後、札幌医科大学医学部微生物学講座 講師、助教授、准教授を経て現職に就かれておられます。これまで新型コロナウイルスについて、新聞やテレビを通じ積極的に情報を発信されておられます。



写真-3 横田 伸一氏

(2)講演について

講演会では、コロナの感染が始まった2020年から振り返り、感染拡大の理由、対応の変遷、感染の波、変異株についてお話しされた後、日本における

感染症の流行状況、コロナワクチンの接種拡大・勧奨の意義、治療法の進展と飲み薬の開発の状況についてお話しされました。最後に、感染対策に100%の方法は無く、「感染対策の効果のある方法を組み合わせ、できることをこつこつと積み上げる」「リスクの高い空間、行動では感染対策をより慎重に行う」「感染を起こさないようにすることも重要だが、感染(疑い)が起きたときどうするか考えておく」といった、感染することをどこまで許容するかが求められると結ばれました。

ご講演の中で、抗ウイルス薬の開発は非常に難しく、コロナ感染者のなりゆき(症状の程度や期間、ワクチン接種有無など)が多様であるため薬の効果が見えにくいこと、重症化リスクの軽減を目的に開発が始まったが軽症化してきていることなどを挙げられ、今後は投与対象の制限のない新薬が望まれると語られました。

4. 懇親会(17:45～19:30)

講演会終了後、会場を隣の部屋に移して懇親会が開催されました。懇親会は会員他59名の出席により4年ぶりの開催となりました。

飯野事務局次長の進行により、植村副本部長の開会挨拶、羽二生副本部長の乾杯の音頭で開宴となり、懇親会がスタートしました。開宴後は、ご講演いただいた横田様からのご挨拶、新名誉会員となられた佐々木技術士、会長表彰受賞者の紅葉技術士からのご挨拶があり、続いて地方技術士委員会からのご挨拶、新任役員・委員長・研究委員会代表からのご挨拶がありました。宴もたけなわでしたが、最後に布村副本部長の一本締めによりお開きとなりました。

5. おわりに

今回快くご講演をお引き受けいただいた横田様に心からお礼申し上げます。

来年10月には技術士全国大会が札幌で開催されます。会員・会友の皆様のご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

小澤 達也(おざわ たつや)

技術士(建設部門)

日本技術士会北海道本部
事務局次長
株式会社ドーコン

